

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 梅ユニット		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の生活を主体とし必要な治療やリハビリをケアの構成要素として取り込んだケアを母体施設と連携し実施している。入居者一人ひとりが生き生きとした生活ができるように、「高齢者」や「認知症」という概念に捉われないことと一人ひとりの個性を尊重したケアの実践に取り組んでいる。また、共同生活の中で入居者それぞれが相手を思いやることやそれぞれの関係性を尊重しながら入居者間のきずなを大切にし、生活の中にその関係性がもたらす相乗効果を活かせるように働きかけている。また、その中で入居者それぞれが役割を見出し達成感や帰属感を感じられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関を母体とするホームには、法人内の全ての部署が入居者の健康維持や日々の暮らしに関わり、一人ひとりを支えている。入居者の心身の状態は毎夜その日の最終報告として苑長にあげられ、現状把握や早期対応に繋がる管理体制が確立している。近年の新道路の完成により法人敷地を2分する事態となってしまったが、高齢者の歩幅や横断時間を考えた歩道の実現や職員のおお一層の危機管理により、安全確保を第一に掲げている。地域の要望に応え新設された有料ホームは、コストを抑えながらも充実した設備やこだわりの器で提供される手作りの食事、経験豊富な職員の配置などこれまでの運営を活かしながら、人々の思いに応えている。グループホーム15年の歩みの中で、終始変わらぬ姿勢は入居者や家族の信頼となっており、今後も温もりのあるホーム運営に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	だれも見やすい所に理念を設置し、研修会等で学ぶ機会をつくり、全職員で理念の共有を図り実践に取り組んでいる。	理念は、開設時から変わらず継続しており、玄関などへの掲示や研修会等で理解と共有を図り、日々の実践に繋げている。特に、理念を踏まえた年目標を定めており、本年は、「入居者さんを理解する」という目標を掲げ、入居者に直接尋ねることでその思いや意向を確認し、ケアに活かせるよう努めている。家族会や運営推進会議でも、理念について話す機会を設け、ケアへの反映について話をしている。	理念は開設時から継続され、周知も図られているが、パンフレットや広報誌にも掲載することで、更に啓発に繋がると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や外出の際に地域の方との交流の機会をつくったり、職員は挨拶をするように心掛け、親しみやすいような雰囲気づくりに努めている。	外出の際は、積極的なあいさつや声掛けに努めている。地域の清掃活動に参加し、ホームの納涼祭にも案内するなど、交流に取り組んでいる。認知症サポーター養成講座への講師派遣や幼稚園児の訪問、中学生の職場体験や地元高校福祉科からの実習体験を受け入れる等交流に努めている。隣接地には、新たに、住宅型有料老人ホームを開設して、地域の福祉ニーズに応えている。	近隣の幼稚園からの訪問も行われており、今後はホームからも入居者と共に園に足を運ぶ、相互交流に発展することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で「認知症」に関する講演をしたり、入居者と一緒に地域に出掛けることで認知症の啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者も会議に参加することで、入居者の声や表情からサービスの実際が伝わりやすく、お茶やおやつを一緒に食べることでケアの在り方を見ていただけるようにしている。また、意見や感想についてもその場で入居者の意見を聞きながら活かせるように努めている。	2ヶ月に1回定期的開催される会議は、区長、市役所、各ユニットからの家族・入居者代表をメンバーとし、ホームからは代表者、苑長、ホーム長等が出席している。会議では、行事やホームの近況等が報告された後、意見交換が行われている。最近では、ホーム前の横断歩道の信号設置について高齢者に危険のない時間調整が実現する等、出席者の働きかけにより、迅速に解決されている。また、外部評価についても取り組みや結果が報告されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の実情を伝えている。また、助言を頂きながらそれに応えられるように努めている。	市は、運営推進会議に出席があり、必要な情報を提供している。また、他の福祉施設で発生した火災事故直後には、ホームの防火体制の確認が行われている。行政からの研修案内には可能な限り出席し、講師依頼にも応えるなど良好な関係作りが行われている。	外部評価結果については、市に提出後、次の運営推進会議などで、改めて意見や感想を受けることで、取組が今後活かされるものと思われる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束について学び、理解したうえで身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、日頃より、自身のケアを振り返り、身体拘束につながるような言動に気をつけるように働きかけている。	声掛け一つや職員間の連携不足からでも、身体拘束に繋がっていくことや、抑制感のない入居者の生活が中心であることを、毎月のミーティングや勉強会をはじめ、日常の業務の中でも周知徹底を図っている。また、各ユニットに啓発に繋がる文書を掲示して、職員それぞれがケアを振り返ってもらうようにしている。玄関は施錠しておらず、センサーマットも使用されていない。家族には、入居時や状態変化時にリスクがあることを説明し、理解を得られるよう関係づくりに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待について学び、さまざまな種類の虐待があり、受ける側の気持ちになって考える習慣を身につけるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の権利擁護の制度を学び、支援が必要な入居者に関しては、本人の意向を中心に関係者と検討し本人の望む支援の形態がとれるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に面談を行い、十分な説明と理解されたかの確認を行い、疑問や不安にはいつでも対応できる旨を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の家族会や運営推進会議を開催し、ゆっくりと時間を設けて、家族間やスタッフ、経営者へ意見を言える場をつくっている。面会の際にも職員と話をしやすいように、小まめな声掛けを行っている。	入居者や家族代表が各ユニットから運営推進会議に出席しており、意見、要望を表せる機会となっている。また、入居者からは日常生活の中で、入浴や食事などゆっくりした時間帯に、希望、要望等を聞いている。家族の意見などは家族会や面会時に声掛けをしながら、話しやすい雰囲気の中で、気になったことはすぐ言ってもらえるよう配慮している。家族から、感染症対策として手指消毒液について提案があり、早急に検討し玄関へ設置されている。ホーム内外の苦情相談窓口については、入居時に説明している。	現在、意見箱は設置されていないが、意見・要望等のみならず、家族の満足度なども確認できる機会として、アンケート方式等も一案と思われる。検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや定時の報告など、管理者と話す機会がある。意見も個人としてではなくユニット毎にまとまりがあり、ユニットの意見として出し、経営者や管理者等で検討し運営に反映させている。	毎月開催するミーティングには、苑長も出席しており、職員からの気づきを直接聞く機会となっている。日常の業務の中で出される職員の意見や提案はホーム長が取りまとめ、苑長へ報告を行い、ミーティングなどで検討を重ねながら必要な改善が図られている。また、法人代表者も毎日、各ユニットを訪れ、入居者や職員と会話をしながら、ホームの現状を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度等による給与や労働条件の見直しを図り、職員個々の能力やモチベーションの向上に努めている、		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりにその時々に見合った助言を行い、職員の育成に努めている。職員の意欲や資質等から資格取得へのバックアップも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	荒尾市の地域密着型サービス連絡会の研修会や交流会に参加したり、他の研修会等に参加することで同業者との交流を図り、互いの事業所の情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の話に耳を傾け、本人ときちんと向き合い、不安を取り除き安心して生活できるような関係性を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に本人の状態や生活歴等を聞き取りながら希望に沿えるように努め、安心してもらえるような関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を考慮しながら、必要なケアを見極めながら他の専門職と連携し総合的な生活支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意欲や能力に適した家事作業に取り組んでもらうことで役割を担い達成感を感じながら互いに助け合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を促したり、面会時には本人のことを相談したり、必要なものを持ってきていただくなどの協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等で外と関わる機会をつくり、面会の際にはゆっくりとお話ができるような環境作りに努めている。	家族・友人・知人の面会時は、居室やリビングでゆっくり過ごしてもらい、誕生会など行事と重なった場合は、踊りを一緒に見学してもらうなど、楽しい時間を持ってもらえるようにしている。入居者は、戦時中や戦後の話、万田坑など炭鉱の町らしい話をよく出され、職員はしっかり耳を傾けるようにしている。ホームは目の前が海であり、まじゃく釣りの様子なども馴染みの景色となっている。入居者の特技、趣味、こだわりも継続できるようにしており、ぎょうざ作り、好みのコーヒーの準備なども行っている。また、家族の協力を得て、お盆、正月やお墓参りでの帰宅も支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格を把握しながら、本人の意思を尊重しながら相性や心身の状態等に配慮し入居者同士の関係を築けるように、また向き合って座れるようにソファを配置することで孤立感のない環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も適切なサービスや医療が受けられるように紹介や引き継ぎを行い、継続的に情報の提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの主体的な生活を尊重し、介助を行う際には本人の意思確認を努めて行うようにしている。また、経過を見守り、総合的に生活の評価を行うことで本人の意向に沿っているかを判断している。	入居者が遠慮なく日頃の思いを口に出せる環境や関係作りを大切にしており、職員は会話の中から表情を引き出す努力をしている。表現困難な方にも寄り添いのケアから、普段のやり取りや行動、更に家族の情報を元に、本人の意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや馴染みの物や事を把握することで取り入れながら入居によるストレスの軽減を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活を総合的に評価することでその時々本人に必要なケアの見直しと生活の内容の検討を行い、身体状態に合わせた生活が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間や関係機関との情報の共有に努め、本人に必要なケアの組み立てを行い、本人の生活がより自律できるように様々なアイデアを参考に介護計画の作成を行っている。	ホーム長は「職員によって入居者への声掛けも引き出し方も違ってくる」とし、それぞれが収集した情報をプランにあげながら、本人の思いを支援したいとしている。今後モニタリングを担当制とし、経験豊富な職員の評価を基に次の支援に繋いでいきたい意向である。	日頃の職員の細かい気づきがプラン作成に反映されており、今後も各ユニットでプランに沿って自身がなすべきことを勉強会などで更に共有していく事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌の記録や特記に関しては申し送りノートを活用しながら情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状態の把握に努め、必要なケアの実践を行っている。自分たちができることをきちんと理解しながら本人の意向に沿うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れを積極的に行うことで、地域と協力しながら入居者一人ひとりが豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設より週1回の訪問診療が行われ、本人の希望や必要に応じて他の医療機関の受診も支援している。	現在隣接する母体医療機関をかかりつけ医とし、担当医師による定期往診が行われている。顔なじみである医師の訪問は、入居者の信頼や安心感となって日々の様子をやり取りしながら進行している。他科受診には家族の協力も得られており、外出や入居者の心身の状況を共有する機会としながら、共にホームでの暮らしを支えている。	医療に関わらずホームでのアクシデントについて事故報告として行政にあげ運営の透明性を図り、先ずは入居者が安全に過ごせる環境作りに努めている。継続した支援を望みたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態の把握と訴えが生じた際、必要に応じて看護職に伝え、適切な医療を早期に受けることができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体施設の各専門職と情報の共有に努め、入居者が安心して治療を受けたり退院後の生活に支障のないように連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対し口頭と書面での説明を行いホーム内でできることやできないことを説明し、本人や家族の意向を確認し医療機関との連携を図りながら終末へのケアを実施している。	入居時やその後の入居者の状態を見ながら、必要に応じて医師や関係者を交え、家族との話し合いが行われている。経年からくる入居者の体調変化や病状悪化に法人全体で取り組み、重度化してもリビングで皆の中で過ごし、食事形態が違って、同じ食卓を囲みながら過ごす環境を大事にしている。職員は研修会で緊急時や重度化した場合の対応について学びながら、その時々を大切にしていく事で一致している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で応急手当や初期対応について学んでいる。母体施設とも連携をとりやすい体制がとられている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、毎月施設外周の点検を行っている。地域の消防署とも協力体制をとり、災害対策の助言をいただき実施できるように努めている。	年2回の避難訓練には消防署立ち合いによる総合訓練と、緊急連絡網による伝達訓練が実施されている。法人の自衛消防隊の編成により、担当者の役割を明らかにし、各自が責任と実行力をもって望むことで有事に備えている。地域柄地元の消防団の協力も継続され、敷地内に複数の施設を有する法人には心強い存在となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりのことをよく理解し、適切な声掛けを行うように努め、また、生活の中で本人の主体性が引き出せるような働きかけも行っている。	入居者一人ひとりの尊厳に配慮した支援については、法人代表者や苑長より日頃から指導が行われており、その人らしい生活の場所の提供にホーム全体で努めている。呼称は苗字にさん付けを基本としているが、反応なども見ながら決定している。オムツ交換時の同性介助希望に応じる他、就寝や起床支援は、女性職員で対応している。おしゃれの支援も、個々の個性を尊重しており、月1回訪問の美容師によるカットは、好みを聞いて似合った髪形に施術され好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの希望を把握し、生活の中で本人の意思確認を行い、それを尊重できるように努めている。声掛けや関わりを小まめに行うことで言いやすい関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で主役である本人のペースを大切に、一人ひとりに適した誘導や声掛けのタイミングを図って行うことで、個別のペースで共同生活が叶うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面や整髪、身だしなみに配慮し、本人の尊厳が保たれるように努めている。また、訪問の理美容の利用も本人の意思を確認している。好まれる衣服や髪型を把握することで、できなくなっても代わりに行って本人の満足感を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓に季節の花を飾ったり、食事の準備や片付けを一緒に行っている。食卓に揃って、当番制で挨拶の声掛けを行っていただくことで、役割や話す機会をつくるように努めている。	献立は季節感や旬の食材を活かし作成しており、テレビ視聴時に発した入居者の「あれが食べたかね～！」を大切に組み入れている。また、法人栄養士には、献立をはじめ入居者の楽しみとなる食事支援にアドバイスを受けている。誕生会は入居者の希望を取り入れたメニューを準備しており、家族にも是非参加して欲しいとの思いから家族の日程を聞き決定している。入居者が調理に関わる機会は少なくなっているが下準備や味の評価、下膳などできる事で食への関りを支援している。	職員も見守りや介助を行いながら同じものを一緒に摂ることで会話も弾み、思いも共有されている。今後も入居者にとって楽しい食事支援を継続していきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材をとり入れたメニュー作りを行い、入居者一人ひとりの摂取量の把握に努め、不足される時は補助食や食べやすい形態にする等の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できることとできないことを理解し、プライバシーに配慮したケアに努めている。清潔の保持が困難な場合には使用する道具や方法を見直し、一人ひとりに適した支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の無いように早めの声掛けや誘導に努め、できることとできないことの把握に努め、適切なケアを行っている。身体の状態に適したケアを行い、負担感のないように努めている。	排泄支援は尊厳やプライバシーへの配慮にも繋がることから、職員は失敗のないよう早めの声かけや誘導に努めている。排泄用品も昼・夜、状況に応じた使い分けや組み合わせを検討しており、職員間で統一したケアができるよう会議や申し送りなどで共有している。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみ使用されるポータブルトイレは、洗浄や日光干しにより清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量の確保に努め、食物繊維の多い食材を使用したり、適度な運動に取り組めるように支援している。また、必要に応じて薬剤を使用し、生活に支障のないように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の状態に合わせて、本人の希望の確認や好みを把握することで入浴を楽しんでいただけるように努めている。	入浴は清潔保持に加え、楽しみなものとなるよう本人の希望や好みの湯温に合わせて支援している。殆どの方が週3～4回入られており、拒否の方も2回は入ってもらえるようにしており、更衣は毎日行っている。浴槽でゆっくりとした時間は、職員とのコミュニケーションの機会でもあり、身体状況に応じて職員体制も2名で対応している。菖蒲や柚子など季節湯は、2日間実施することで全員が楽しめるようにし、冬場は湯たんぽもホームで準備している。	脱衣所や洗面場などにおいても安全面（髭剃りの保管など）や掃除の確認など、定期的に進められることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりに適した活動と休息を生活の中で取り入れ、夜間帯と日中の状態を把握することでその日に応じた過ごし方をさせていただけるようにしている。日々の生活の中で一人ひとりに適した生活リズムを整えることで生き生きと過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりのお薬の内容の把握に努め、介助の際には本人と共に名前の確認を行い、飲み込むまで見守りを続けている。内服の変更や状態に変化がある時は医療機関と連携し状態の観察と情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でなにかを行うことにこだわらずそれぞれの役割を持たれている。家事作業においても、誰かの仕事ではなく皆で行うこと、食卓での会話や日々の暮らしでそれぞれが助け合っていく中でそれぞれの役割があるように感じられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へは自由に出ることができる。外出も苑の行事や個別の用事等で外出されることもあり、家族の協力を得ながら本人の希望に沿った外出の支援を行っている。	外出は本人の希望や身体状況に応じて支援しており、2階の入居者は戸外に加え、ベランダも歩行訓練や外気浴の機会として活用されている。季節の花見(桜や菖蒲など)全員ではないが、地域資源を活用しながら戸外に出る機会を持っている。また、帰省や外食など家族の協力も得られている。外出をはじめホーム内の行事の様子は、むつみ苑の思い出としてファイルに綴じ管理されている。	関連施設、昭和の里の開設はホームの入居者にとっても交流の機会であり、お隣さんとしてのお付き合いが外出に繋がる事も期待される場所である。また、苑の前の国道の開通は家族にとっても心配の面もあると思われる。今後も外出の際は十分な注意をお願いしたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によってはお金をもつ意義がそれぞれあり、必要に応じて家族と連携しながらその支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに馴染みのある黒電話を設置し、自由に使えるようになっている。かけたいところにかけてられるように番号を教えたり、かけるなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングに思い思いに過ごせるようにソファを配置し、昔馴染みの家具や調度品を置くことで居心地のよい空間作りに配慮している。	2階に2ユニット、1階に1ユニットのホームは、それぞれ造りやその眺めなど異なる環境であり、職員はその特性を活かしながら入居者が安心して過ごせるようにしている。室温は季節や入居者の状況に応じて空調設定を行い、テーブルの配置も関係性を考慮しながら決定している。玄関や階段・踊り場などの共用空間に置かれた手作りの人形や古民具は来訪者にとっても、懐かしさや心和むものである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中で思い思いに、また入居者同士と好きなように過ごすことができるようにソファの配置に工夫している。また、気の合うもの同士と一緒に過ごせるように誘導を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者によっては使い慣れた家具や物を持ちこみ、好みのもや空間づくりを家族と共に協力して行っている。	入居時にこれまでの部屋と同じような環境が安心して繋がることを説明し、馴染みの品の持ち込みを伝えている。昨今はタンスなどは運搬面から困難であったり、物品が殆どなかった方もあり、箸や小物など何かしら使い慣れた品の持参を依頼している。居室の掃除は職員が行っているが、整理・整頓を自身でされる方もおられる。また、家族の中には衣替えやベッドの向きなど面会時に気づいたことを職員と相談しながら実施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりの設置や、居室やトイレ等に目印をつけることで迷うことなく過ごせるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 桜ユニット		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体施設との医療面の連携を図り、本人の生活を主体に必要な応じた医療の提供がある。本人の状態に合わせて柔軟に対応することができ、本人の健康面の安心や生活の継続が実現している。認知症においても入居者一人ひとりの特性を理解し、一人ひとりその時々に応じた対応ができるように職員それぞれが意見交換し研鑽を重ねている。生活そのものが本人主体となっており、本人の能力に捉わられることなく、本人の意思や希望が実現できるような生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念の共有を図り、実践につながるように日々振り返りを行い取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的な挨拶や声掛けを行い、行事等への参加や協力を働きかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や通院時等の交流の場において入居者の様子や関わり等で親しみやすさを感じられるように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議の開催を行い、行事や入居者の状況、事業所の課題等を報告し、意見をサービスに反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、議題に限らず、雑談をすることで、顔なじみの関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解するとともに、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、理解することで日頃のケアの振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の実情を理解したうえで、必要な時には利用を支援できるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族が不安や疑問を持たれた時は説明できるように職員一人ひとりが理解できるように努めている。また、すぐに相談できる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等、家族間で話し合いをやすく、意見を言える機会をつくっている。出された意見は運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間での意見を管理者とよく話し、可能な範囲で意見が実現されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員が向上心を持って働けるような職場環境の調整に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が実践しやすい研修会の内容や疑問に答える場をつくり、一人ひとりが向上心を持って働けるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会への参加や活動を通して、事業所のケアの向上につながるように働きかけている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人をよく理解できるようによく話を聞くことや職員間で情報を共有し、笑顔で接するように心掛けよい関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと等を言いやすいように、本人の情報や必要なものの依頼と小まめに声掛けを行って信頼関係を築けるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がその時必要としていることを見極められるように、関係者への情報の聞き取りや情報の共有を図り、検討する。できる限りの支援ができるように関係各所との連携を図るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているということを意識しながら、入居者一人ひとりと良い関係が築けるよう関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に声掛けを行い、介助への協力や家族の関わりを邪魔しないように配慮し、必要に応じて様々な協力の依頼を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生きてこられた時代を大切に思い、その当時の話や入居者の若いころの話を聞くようにし、生き生きと話をされるような場面をつくるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がよい関係を築けるように関係性等に配慮しながら関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事への参加の働きかけや、会う機会があったときには挨拶や近況の様子を伺うなど、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向の把握に努め、本人本位に検討した暮らしの実現を支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からよく話を聞くように努め、職員間や家族とも情報が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの把握に努め、情報の共有化に努めている。必要に応じて医療機関との情報の共有も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で意見交換を行い、本人主体の暮らしが実現できるように、必要な支援を検討しながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し、情報の共有化を図っている。また、常にケアの見直しや気づきが共有できるように職員間での意見交換を意識して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った支援ができるように自分たちができることや事業所ができること、必要に応じて家族の協力を得てできることを話し合い、実践に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりの必要に応じて地域資源が活用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望や安心を第一に考え、かかりつけ医の受診を支援している。異変時には母体施設での医療が受けられるような体制になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護職員とのコミュニケーションを密に行い、入居者の情報の共有を図っている。看護職が入居者を理解したうえで関わることで安心した看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は面会の支援を行い、馴染みの関係の継続に努める。母体を通じた医療機関との連携により早期の退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	住み慣れた環境での終末期ケアを本人や家族の希望で実施している。安らかな終末を迎えられるように、小まめな声掛けやスキップ、尊厳が維持できるようなケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応に備えて、勉強会で学び、実践できるように練習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制や対応について定期的に模擬訓練を行って備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行い、その時の気持ちを汲み取るように心掛けて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が自己決定できるように意識した声掛けや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の性格やペースを把握し、本人の希望に沿った生活ができるようなケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個々の個性を尊重し、利用者や家族の希望に合わせた理美容の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材をとりいれて、入居者それぞれの嗜好や咀嚼・嚥下機能に適した食事の提供に努めている。また、準備や後片付けへの協力も促している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌や申し送りノート、口頭での情報の共有を図り、入居者一人ひとりの状態の把握に努め支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、一人ひとりの能力に合わせて適切な支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの心身の状態に合わせた排泄の支援を行っている。介助時の排泄状況の情報を共有することでその後の介助の調整を行うように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の把握に努め、水分の摂取を促すようにしている。また、運動への取り組みを支援し、必要に応じて薬剤を使用し、本人の不調を来さないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の状態に合わせて、できる限りで本人の希望に沿った入浴が支援できるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜間の安眠ができるような室内環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服の内容の把握に努め、内容の変更があれば、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からの情報をもとに、本人の意思を確認しながら家事等への参加を依頼している。また、散歩やレクリエーション等の余暇活動への取り組みも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい時に行きたい場所へ行けるように支援している。身体状況により、自由に外出できない方も家族と散歩に出られたり、可能な限り本人の外出への希望が叶うように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせてお金をもつことを家族とともに支援している。また、好きなものを買うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに黒電話を設置し、自由に利用できるような環境作りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やトイレ等に目印を付け、分かりやすいような環境作りに配慮している。また、居心地がよいような空間作りに心掛けた刺激の調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性やそれぞれの居心地の良さ、に配慮してソファを配置し、本人の意思を尊重しながらそれぞれの居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族への協力を得て、それぞれの使い慣れたものを取り入れ、好む居室作りを行い、居心地良く過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態を把握し、本人の能力が十分に発揮されるような生活が送れるように、適切な支援の実施に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 桃ユニット		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体施設が医療機関であり入居者の健康や疾病の管理も本人の生活を尊重しながら行っている。急変時の対応もワンコールにて可能となっている。院長自らが畑づくりを行われ、安心安全な無農薬の野菜を食事で提供できている。施設が有明海に面しており、夕日が沈む様が素晴らしい景観に恵まれている。室内には昔馴染みの調度品を設置し高齢者の親しみの深い環境づくりを行っている。定期的に研修会を行い、スタッフの知識の向上に努めている。地域や家族との連携を密にし、施設の運営に協力を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも理念を念頭に置き、入居者の生活が理念に即しているかを考えながら入居者主体の生活を支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年中行事へ地域の方々を招いたり、地域のボランティアの訪問演芸を受け入れて、地域の方とのふれあいや交流の機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会へ地域の方に参加していただき、事業所の取り組みを伝えている。また、職員が地域に赴き認知症についての講演等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、運営状況の報告や議題について話し合い、事業所や地域に課題があれば検討してサービスの向上につなげるように努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加の際には他の事業所の取り組みや市としての意見、要望を伝えていただき、事業所の抱えている課題への協力依頼を行い連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で職員それぞれの意識付けを行っている。また、スタッフルームに掲示することで、日々の振り返りや入居者のケアの見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や掲示物での注意喚起を行い、職員間での声掛けを積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学び、必要性のある入居者については話し合い、活用を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個別に面談し、改定時には家族会時や文書の郵送にて説明を行っている。そして各家族より同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議への参加を呼び掛け、意見を出せる機会をつくっている。また、面会時には職員が声掛けを行い意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月頭の主任会議に代表者も参加し職員の意見も含めた会議を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や態度等についてユニット長より施設長やホーム長への報告相談を行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修会への参加や通信教育の受講を勧める等の働きかけや勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGHの勉強会に参加した際や実習生との意見交換を行い、自分たちの介護を見直し質の向上に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人と家族からの聞き取りを十分に行い、意向の確認を行っている。入居時は信頼関係を築くためにコミュニケーションを積極的に行うよう訪室の回数を増やしたり十分な関わりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅から施設ケアへ変わることの不安を軽減していただけるように、ケアの方針や意向の確認を行い本人に適したケアの実施に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に係る情報の収集に努め、必要に応じて家族や母体の専門職との連携をとりながら適切なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物たたみ等家事の一部に協力していただきながら調理についてのアドバイスをさせていただいたり、相互に支え合う関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には本人の状態やケアについて報告を行い、家族とともに本人のよりよいケアを考え支援していけるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、近所の方が面会に来やすい環境作りに努めている。馴染みのある黒電話を設置して自由に連絡が取れるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方が一緒に過ごしやすいような環境作りに配慮し、体操やゲーム、歌を歌ったり全員でのレクリエーション活動を行い入居者間のコミュニケーションを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院等で退居された後でも必要に応じて情報提供や相談に応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への意思の確認はその都度実施し、本人への負担や苦痛が生じないように生活を送れるように職員間で情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の本人との会話や入居や面会の際の家族からの聞き取り、関係者からの情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情やバイタル、食事の仕方など生活全般の観察を行い、家事や散歩等への参加を促し各入居者の有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との定期的な面談や意見交換を行ったうえで本人や家族の意向に沿った生活を送っていただけるように各専門職とも連携し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用と職員間の連携を密に行いケアの見直しと向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に各部署との連携を図り入居中の一時的な入院や通院に対応し、その都度個々のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力が十分に発揮できるように地域資源に働きかけ、協働して本人を支えられているようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて以前からのかかりつけ医の受診の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時報告や状態の経過報告や緊急時の連絡を看護師である施設長に行い、週1回の訪問診療時と併せて本人の状態に適した医療や看護を受けられるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人全体で入居者の情報の共有に努め、母体や他医療機関へ入院される際も退院時への支援について各専門職間で意見交換を行い必要なケアを検討して実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態の変化に応じて説明を行い、本人や家族の意向を確認し、適切なケアを各専門職で連携し実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の開催や専門職からの情報の提供や対応法についての指導を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、災害時の対策や避難経路を掲示することで体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心を損ねないように配慮した介助時の声掛けを行っている。入居者同士の交流の際も必要に応じてスタッフが間に入り支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な活動への参加やお手伝いの際には、本人の意思を確認するように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースや性格を把握し、本人の希望に沿った暮らしが実現できるように、日々の一人ひとりの生活に向き合い支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個々の個性が表現できるように、それぞれの能力に合わせてその日着る服を選んでいただいたり、理美容を利用していたっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いの把握に努め、味付けや調理法を工夫し季節の食材を取り入れながら、栄養の偏りがないように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々に適した提供を行い、摂取量の把握に努め、職員間や医療職との情報の共有を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを入居者個々の能力に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄の状況や能力に合わせた支援を行い、適切なオムツの使用と自立を目標に掲げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と食物繊維の摂取や個々に合わせた飲み物や食べ物の提供を行い、運動への取り組みの声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者個々の体調に合わせ、本人の希望に沿った入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態の把握に努め、生活リズムの調整や日中の休息の取り入れ、夜間安眠できるように日中の生活の見直しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服の内容を把握し、状態の変化に応じて医療機関と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の生活歴や性格を把握し、本人の意思を確認しながら役割を担っていただけるような支援を行っている。また行事への積極的な参加を促し、気分転換や余暇活動の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や家族の協力体制に応じて外出の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じて嗜好品や消耗品の買い物の同行や代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングには昔馴染みの黒電話を設置し、自由に使用しやすい環境作りに配慮している。また、手紙等の投函依頼や代筆にも応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには昔馴染みの調度品を配置し、穏やかに過ごしていただけるような空間作りに配慮している。お雛様や七夕等の節句も季節感を感じていただけるように飾りを置くようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのソファの配置を入居者がテレビを視聴したり談話したり、また静かに過ごせるように検討して行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の準備の際に本人及び家族にその必要性を説明し、使い慣れたものや好みの生活用品を持参していただき、本人が安心できる居場所づくりができるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内外に手すりを設置し障害物は取り除くなどの安全な歩行の環境作りに配慮している。		